CASSIOPEIA NKANI

Vol. 33 July 2024

CASSIOPEIA－UHC達成に向けて、対象の5つの病院における、5つ星に輝く質の高い医療ケアサービスを目指して

JICA　ルサカ郡総合病院運営管理能力強化プロジェクト

JICA知識共創プログラムの参加者たちが、国立国際医療研究センターで初日の説明会に参加したときの集合写真。

病院に変化を促す国別研修

課題別研修：医療機器管理とメンテナンス

ルサカ州にて四半期看護部長会議が開催

病院に変化を促す国別研修

KCCPの参加者たちは東京の菊名記念病院を訪れ、薬局、病棟、感染予防管理（IPC）に重点を置いて施設を見学しました。

国際協力機構（JICA）から委託を受け、日本の国立国際保健医療センター（NCGM）は、6月に国別研修を開催しました。この研修に、ルサカ州保健局（LPHO）、ルサカ郡保健局（LDHO）、プロジェクトの対象である5つの一次レベル病院（FLHs）（チャワマ、チレンジェ、チパタ、カニャマ、マテロ）から14名の職員（薬剤師と計画担当）が参加しました。

ルサカ州保健局（LPHO）からは、アブラハム・ムケセラ氏（薬剤師主任）を筆頭に、マージョリー・カバンダ・ナンカンバ氏（計画担当主任）、ルサカ郡保健局（LDHO）からは、リンダ・ニョンド氏（薬剤師）とムソンダ・マクンバ・マリ氏（計画担当主任）が参加しました。対象病院は、チャワマ病院からビンセント・サクヤ氏（薬剤部長）とキャサリン・シコポ・サマスモ氏（計画担当者）、チレンジェ病院からシピウェ・マコワネ氏（薬剤部長）とアグネス・チャンダ氏（計画担当者）、チパタ病院からハチゾー・マラ・ンコマ氏（薬剤部長）とカネクワ・ニレンダ（計画担当者）、カニャマ病院から、ユニス・ナンベイェ氏（薬剤部長）とエメルダ・ムウェンダポレ（計画担当者）、マテロ病院はグッドネス・ングルベ氏（薬剤部長）とティシエンジ・タマニ・テンボ（計画担当者）が参加しました。

知識共創プログラム（KCCP）として実施されるJICAの国別研修は、JICAが支援国のカウンターパートを日本に招いて行う人材育成のための技術協力です。KCCPには、国別研修と課題別研修があり、カシオペア・プロジェクトではいずれの機会も有効活用しています。参加者は、日本で検討した目標案や活動案が、ザンビアの環境で実現できることを期待して選出されています。

© JICA - The Project for Strengthening Management Capacity of the General Hospitals in Lusaka District

薬剤師

薬剤師7名は、研修中にザンビアでの薬剤業務の課題を挙げ、対策を話し合いました。帰国して3か月以内に取り組む対策案には、入院病棟の近くにサテライト薬局を設置すること、医療ミスのリスクの高い薬を色分けすること、そして薬剤部のバランスト・スコアカード（BSC）を充実させることが含まれていました。

アブラハム・ムケセラ氏 - ルサカ州保健事務所の主任薬剤師。

これらの対策によって、患者さんの待ち時間が短くなり、受診環境がよくなるという期待が込められています。

リンダ・ニョンド氏 - ルサカ郡保健事務所の薬剤師とその同僚。

ルサカ郡保健局（LDHO）のニョンド氏は、「日本では、薬剤師は正しい処方箋が患者さんに渡っているかを何度も確認するので、薬剤師が薬の渡し間違いをすることはほとんどない」と強調しました。薬剤師が患者さんに薬を渡すまでには、薬剤師が受け取った処方箋を確認し、コンピューターが自動で確認する、そして、別の薬剤師が包装された薬が正しいかを確認する、の少なくとも3つの段階を経ています。

ヴィンセント・サクヤ氏とスタンリー・アジュサ氏 - チャワマー次レベル病院の薬剤師。

チャワマ病院の薬剤師であるサクヤ氏は、「日本の薬剤師は、投薬後の患者さんの反応をみて、次にどのような介入が必要かを判断できる」と言います。これらの情報は、すべてオンラインで入手できるようになっています。

© JICA - The Project for Strengthening Management Capacity of the General Hospitals in Lusaka District

計画担当

ルサカ州保健局（LPHO）の計画担当主任であるナンカンバ氏に率いられた計画担当たちも、研修でアクションプランを作成しました。最も優先順位が高い目標は、ザンビアの国民健康保険であるニーマ（NHIMA）への登録を啓発することでした。彼女は、「日本では皆、健康保険に加入しているので、医療を提供する資金が確保されており、誰もが質の高い医療を受けられる」と述べました。2番目に優先順位が高かったのは、年間予算計画を見直して、計画した活動が確実に実施されることでした。また、州保健局（LPHO）にバランスト・スコアカード（BSC）を導入し、政府の戦略計画や政策と連動させる計画もあります。日本で学んだことのうち、ザンビアの人々の仕事に是非取り入れたい考え方を尋ねたところ、「自利利他（じりりた）」の精神を強調しました。研修生は、この精神が実践されているのを、日本の行く先々で目にしたとのことでした。

カニャマ病院の計画担当者であるムウェンダポレ氏も、日本の人々が決められた仕組みと手順を遵守していることを賞賛しました。彼女は、「日本には、個人の生活から職場環境まで、ルールに従う文化がある」と指摘しました。また、「日本の感染予防管理の実践は、公共スペースでも病院内でも、ルールが守られている」とも指摘しました。このことは、日本には、決められたシステムに従う文化があったからこそ可能になったのだと彼女は考えています。ムウェンダポレ氏は、自身の所属する施設で、部門別バランスト・スコアカードが遵守されるようにしたいと考えています。また、彼女は、自身の施設で開催される会議の強化計画も立てています。強化計画には、一貫性のある適切な会議の開催、議論されたことを与えられた期限を守りながら、実際にフォローアップすることも含まれています。

研修参加者一同は、仕事だけでなく、個人の生活にも当てはまる様々な実践の方法を示してくれた国別研修と、それを開催してくれたJICAとカシオペア・プロジェクトに感謝の言葉を述べました。

ルサカ州保健局の計画担当主任マージョリー・ナンカンバ氏と計画担当のニャウバ・カボレ・ロンベ氏。

エメルダ・ムウェンダポール氏 - カニャマ一次レベル病院の計画担当。

© JICA - The Project for Strengthening Management Capacity of the General Hospitals in Lusaka District

課題別研修：医療機器管理とメンテナンス

JICAは、6月4日から7月26日までの1か月間、医療機器とメンテナンスに関する課題別研修を日本で開催しました。ルサカ郡保健局（LDHO）の医療機器コーディネーターであるオベッド・シムシコ氏は、日本でこの研修を受講しました。

研修の目的は、十分な訓練を受けた技術者が医療現場に不足している現状の解消でした。研修の目標は、医療機器を適切にメンテナンスするための基本的な知識と技術を学び、対象国の医療の質を高めることでした。この研修でシムシコ氏が特に印象に残ったのは、「日本の臨床工学技士は医師とチームを組んで仕事をすること」でした。外科手術は、臨床工学技士が手術室に必要とされる機器を常に使えるようにしていなければ行えません。また、日本の臨床工学技士は、「修理の仕事が少なく、機器が使えるように維持することに重点を置いていたこと」も印象的だったと述べました。

彼は自身の行動計画の中で、「標準機器受入書」の使用を提案しています。この様式は2012年に発行された「医療機器管理ガイドライン」で作成され、記録の対象には、寄付された機器に加えて、新たに入手した機器も想定していました。彼はまた、医療機器の標準操作手順書の作成も念頭においています。これは、ユーザーに対して、機器をどのように管理すべきかを示す簡単な手引きです。シムシコ氏は、日本で5S（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）と時間管理がどのように実践されているかを説明してくれました。彼は、それをザンビアでも再現したいと語りました。

オベド・シムシコ氏（ルサカ郡保健局）が、メッドサン・トレーニングセンターで手術台を組み立てる様子。

シムシコ氏が郡山市長を訪問した際に自己紹介する様子。

© JICA - The Project for Strengthening Management Capacity of the General Hospitals in Lusaka District

ルサカ州にて四半期看護部長会議が開催

7月11日、ルサカ州全域の病院から19名の看護部長が、ルサカ州保健局（LPHO）に対面やオンラインで集まりました。

この会議では、ルサカ州保健局による四半期評価の結果を踏まえて、現状の改善方法を議論し、アクションポイントに合意しました。また、州内の病院からグッドプラクティスが共有され、本プロジェクトの対象病院であるチパタ病院は「看護部のリーダーシップスキルの向上」、チレンジェ病院は「感染予防管理」、大学教育病院（UTH）は、「医療機器管理の実践」を共有しました。この会議は、プロジェクトが支援する病院の事例が州全域に共有される機会でもありました。

参加した各施設の看護部長は、四半期をかけて、今回合意したアクションポイントに取り組みます。また、大学教育病院（UTH）やルサカ州内の病院で実践を学ぶ交換プログラムも計画されています。

冒頭の挨拶で、シムルヤマナ・チョオンガ州保健局長（PHD）は、州保健局のチームによるイニシアチブとJICAカシオペア・プロジェクトによる継続的な支援を称賛しました。議論の中で、チョオンガ局長は、病院が、産婦人科医を採用するためのロビー活動を行うことを促しました。また、「政府がどんなに多くの人材を採用しても、人材を適切に管理しなければ、採用は無駄になる。患者のケアを向上させるためにも、上司は部下の能力を最大限に引き出し、上手に管理することが重要である」と強調しました。さらに、チョオンガ局長は、「患者のケアに機器の調達について、看護部長はもっと発言すべき」と述べました。看護部長らは、必要な資源を確保できるよう、あらゆる活動の計画を真剣に行い、計画会議で主張すべきと促しました。

ルサカ州保険局長チョンガ氏と村井チーフアドバイザー。

イヌドゥ・ムバングウェタ氏（ルサカ州保健局）が品質改善ワークショップで発表している様子。

© JICA - The Project for Strengthening Management Capacity of the General Hospitals in Lusaka District

PHOTO FOCUS

日本研修中の参加者たちの様子。

看護部門の四半期会議の集合写真。

ルサカ郡保健局のオベド・シムシコ氏が、メンテナンスワークショップで安全分析装置を組み立てる様子。

研修の参加者たちが、日本での2週間の研修に出発する前の集合写真。

ルサカ州保健局で行われた四半期ごとの看護部門会議で、参加者が質問する様子。

ルサカ郡保健局のオベド・シムシコ氏が、眼科機器のレンズを整備する様子。

研修参加者と日本人専門家の海岸の集合写真。

編集・デザイン：コンベ カパタモヨ
編集：緒方 敬
編集長：村井 真介

連絡先
村井 真介 ルサカ郡病院運営管理能力強化プロジェクト チーフアドバイザー

住所：Plot No.11743A, Brenwood Lane, Longacres. P.o. Box 30027, Lusaka, 10101, ZAMBIA
Cell: +260 765 192 865 (official)

© JICA - The Project for Strengthening Management Capacity of the General Hospitals in Lusaka District